報告パンフレット

学生による京都四大祭りへの挑戦

第 14 回京都学生祭典

学生による
京都四大祭りへの挑戦

京都学生祭典とは

京都学生祭典とは学生が主体となり、「産・学・公・地域」が一帯となって創りあげるお祭りのことです。京都の学生たちの熱いパワーで京都を盛り上げ、活性化することを目的に誕生したこのお祭りは、今年14回目を迎えることができました。そして、今年のテーマは「学生による京都四大祭りへの挑戦」です。京都には京都の文化を表すとされる京都三大祭り「葵祭」「祇園祭」「時代祭」があります。そんな三大祭りに肩を並べることを目標に１年間、活動してきました。そして、四大祭りを目指すための活動目標に「連携先数の増加」、「学生の輝く場の創出」を掲げました。「連携先数の増加」としては、新たに地域活性プロジェクトを行い、5月には伏見、7月には出町柳にて大規模なプレイベントを行いました。「学生の輝く場の創出」としては、より多くの学生たちにスポットライトをあてるため、Kyoto Student Fashion Award（学生ファッションコンテスト）などの新企画の考案やステージ数を増やしてより多くの学生がパフォーマンスをできる空間作りに取り組みました。こうした活動を通して、京都学生祭典は「京都四大祭り」への大きな一歩を踏み出しました。

地域交流

●クリーンアップ

安寧・岡崎地域では地域の皆様と共に清掃活動を行いました。日頃お世話になっている地域の方々と交流を深めるとともに、実行委員の環境に対する意識を高めることができました。

●夜間パトロール

毎月5日に梅逕地域、20日に岡崎地域で行われている夜間パトロールに参加しています。地域の方々と共にパトロールを行うことは、交流を深める貴重な機会となっています。

●打ち水

7･8月にKYO-SENSEプロジェクトの一環として、下鴨神社・伏見竜馬通り商店街・岡崎地域・京都市上下水道局にて打ち水を実施しました。今年度は、京都市の環境マスコットのエコちゃん、京都市上下水道局のマスコットキャラクターの澄都くんとひかりちゃんにも参加していただき、エコ活動の大切さを楽しく発信することができました。

●年間スケジュール（※一部抜粋）

2月 7日　三条もちつき大会（三条周辺）
3月19日　国際交流企画　清水奉納演舞鑑賞＆清水寺周辺の散策（清水寺周辺）
4月24日　稲荷祭（梅逕地域）
6月26日　国際交流企画　京都探検（岡崎周辺）
7月 9日　国際交流企画　浴衣で散策　（出町柳周辺）
7月24日　三条お神輿祭（三条周辺）
7月30日　岡崎納涼祭（錦林小学校）
7月31日　打ち水（下鴨神社）、安寧夏祭り（元安寧小学校）
8月 1日　打ち水（京都市上下水道局）
8月 6日　エコサマーフェスタ（元梅逕中学校）
8月 7日～11日　京の七夕祭（堀川会場）
8月26日　打ち水（伏見竜馬通り商店街）
8月28日　生祥夏祭り（元生祥小学校）
8月30日　打ち水（岡崎地域、平安神宮前）
9月 3日　紫竹夏祭り（紫竹小学校）
9月11日　国際交流企画　体験ブース、おどり披露（イオンモールKYOTO）
9月18日　岡崎レッドカーペット（岡崎プロムナード一帯）

実行委員長　北川 拓海
同志社大学 ３回生

「学生による京都四大祭りへの挑戦」をテーマに約 250 名の実行委員で一年間活動し迎えた 10 月 9 日。12 万 7 千人ものお客さまにお越しいただき、私たちの努力がたくさんの笑顔に繋がったことを本当にうれしく思います。「学生のまち・京都」、この京都の「産・学・公・地域」たくさんの方々の支えがあったからこそ、私たちはこのお祭りを成功させることができました。本当にありがとうございました。そして 15 回、20 回、30 回とこの京都学生祭典が続き、「京都四大祭り」と呼ばれることを心から願っています。

副実行委員長　青木 亮磨
同志社大学 ３回生

プレイベント「地域活性プロジェクト」や年間活動、そして本祭と、この 1 年間で感謝したい人は数えきれません。地域を盛り上げたい！京都の魅力を発信したい！学生のパワーを届けたい！そんな想いのもと、地域活性プロジェクトで連携してくださった皆様には本当に感謝しております。本祭のあの感動も、プレイベントの経験なしでは語れません。「学生による京都四大祭りへの挑戦」ということで、たくさんのことに取り組み続けた 1 年間でした。関係者の皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、ここまでご支援してくださったことに心より御礼申し上げます。最高の仲間と過ごせた、最高の 1 年間でした！

副実行委員長　竹内 夢乃
京都女子大学 ３回生

1 年間、副実行委員長の一人としてたくさんの研修会をセッティングする中で、部員が様々な方面からお越しくださった講師の方の話を聞いて、これからの自分に生かそうと考えてくれたり、本祭に向けての日々の活動につながるようなものはないかと考えてくれたり、そのような瞬間を多く見ることができて本当に幸せでした。形として目に見えるものではないですが、部員の成長実感、そこからくるお世話になった方々への感謝を伝え続ける姿勢をこれからも後輩に引き継いでいきたいと思います。関わってくださった全ての方々にお礼申し上げます。

副実行委員長　北岡 祐典
龍谷大学 ３回生

この度は、第 14 回京都学生祭典にご来場いただき誠にありがとうございました。14 年目を迎えた今年は「学生による京都四大祭りへの挑戦」をテーマに、京都各所での年間活動を通して京都の活性化に取り組み、京都の魅力を一人ひとりに伝えるべく広報活動にも力をいれ、日々活動してまいりました。ファッションやアートなど芸術系分野を含めた様々な分野の学生の本気が結集した素晴らしい一日を創り上げることができました。最後に京都学生祭典に関わっていただいた全ての方に深く御礼申し上げます。今後とも、京都学生祭典をよろしくお願いします。

営業部長　松下 千紘
京都女子大学 ３回生

営業部は、1 年を通して私たちの活動に応援してくださる企業様、そして地域の方々との繋がりを大切に活動してまいりました。京都学生祭典が、京都の活性化や学生のパワーを発信できているのも、いつも私たちの活動を支えてくださるたくさんの方々がいてこそであると、大変感謝しております。そして、10 月 9 日には本祭を無事開催することができ、お客さまのたくさんの笑顔を見たときの嬉しさは今でも心の中に残っています。最後に、京都学生祭典に関わっていただき、応援して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

広報部長　荒木 冬威
立命館大学 ３回生

広報部は日々の活動にて「関係性」作りを大切に活動してきました。2 度にわたる地域活性プロジェクトにおける事前の広報活動や街頭でのチラシやうちわの配布活動で多くの方々に祭典のことを知っていただくことができました。その中で「がんばっているね、応援しているよ」などのご声援をいただくこともあり、多くの方に愛され、支えられて活動できているのだと感じました。最後に第 14 回京都学生祭典に関わってくださった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

おどり普及部長　近藤 彰太
京都大学 ３回生

おどり普及部は京都学生祭典から生まれた京炎 そでふれ！を主に担当し、1 年間様々な場所で様々な方々の前でおどり披露・出前教室をさせていただきました。このような活動はおどり手たちにとっても大学という枠を超えて大変貴重なものとなりました。本祭におきましても、オープニングからフィナーレまでおどり手たちの練習の成果をご覧いただけたかと思います。お客さまと笑顔でともに楽しめる空間づくりに今後とも精進して参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

第14回京都学生祭典
組織委員会 委員長

吉田 美喜夫

公益財団法人
大学コンソーシアム京都
理事長

本年で第 14 回目となる京都学生祭典は「学生による京都四大祭りへの挑戦」をコンセプトに掲げ、23 大学 1 専修学校から 242 名の実行委員が集い、溢れんばかりの情熱のもと、お蔭様で 12 万 7 千人もの皆様にご参加をいただき、大盛況のうちに終えることができました。丹念に準備を進めてこられた学生のみなさんに敬意を表するとともに、ご来場いただきました皆様および関係各位に深く御礼申し上げます。京都学生祭典はこれからも、「大学のまち・学生のまち京都」の一層の活性化に貢献し、京都に集う学生一人ひとりの成長に資する場となりますよう、さらなる飛躍をめざしてまいります。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申しあげます。

第14回京都学生祭典
企画検討委員会 委員長

木村 光博

明け方までの豪雨も晴れ、総勢一千人を超す京炎 そでふれ！総おどりで祭典の幕が開きました。14 年前、地域の皆様のご理解と、産官学が一体となって生み落とされたこの京都学生祭典。今年度は「京都四大祭りへの挑戦」という当初よりの夢がテーマとなり、逞しく成長して開催されました。おどりや音楽、絵画、書道、ファッションとあらゆるジャンルで力溢れるパフォーマンスが繰り広げられ、秋晴れの平安神宮一帯は、笑顔と感動で満ち溢れ、成功裏のうちに幕を閉じることが出来ました。これもひとえに御参加頂いた皆様はじめオール京都の力強いご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

第 14 回
京都学生祭典
を終えて

企画運営部長　堀江 昂汰
立命館大学 ３回生

今年度企画運営部は、全ての学生が輝ける場所を創り上げ、そしてその輝きを来場者の方々に伝えるべく尽力してまいりました。迎えた当日、会場は来場者の方々の笑顔で包まれていました。更に出演者の方々からも最高のステージであったと数々のご賞賛をいただきました。私たちが目指してきた本祭が実現され、嬉しさと満足で満ち溢れています。これは実行委員や当日スタッフはもちろん、出演者やご協力団体の皆様のおカあってのものだと存じます。第 14 回京都学生祭典に携わってくださいました全ての方々に心から感謝申し上げます。

警備部長　小林 加奈
京都医療科学大学 ３回生

警備部は、すべての方々に安心・安全に本祭やプレイベントを楽しんでいただくために、1 年間考え、活動してきました。おかげさまで今年度も特に大きな事故等無く、終えることができました。これは私たち学生だけでなく、各方面の皆様のご協力があってこそ実現したものだと思っております。皆様には多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、京都学生祭典にご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。

年間交流部長　佐藤 希美
京都女子大学 ３回生

年間交流部は、京都中の方と京都学生祭典を繋ぐことを目標に、1 年間活動して参りました。今年度は、京都の様々な地で活動の機会をいただき、私たちは多くの貴重な経験をすることができました。そして、活動を通してたくさんの暖かいお言葉に触れることで、京都学生祭典が多くの方に応援されていることを実感いたしました。最後に、時にご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫びするとともに、京都学生祭典を応援してくださり、活動の場を設けてくださいましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

総務部長　岡本 彩葉
同志社女子大学 ３回生

10 月 9 日、無事に第 14 回京都学生祭典を終えることができました。本部にいらしたお客さまが「毎年来ていて、今年も楽しみにしていたよ」と言ってくださり、本祭が終わってから「祭典、すごかったね」と声をかけてくれた方たちの声を聞き、私たちの活動が当日のお客さまの笑顔に繋がっているのだと確信し、とても嬉しくなりました。それとともに、企業や行政、地域や大学のみなさんの支えがあり、祭典は成り立っているのだということを再認識しました。京都学生祭典を支えてくださるすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

京炎 そでふれ！とは

第３回京都学生祭典から生まれたオリジナル創作おどりです。京都らしい曲、振り、衣裳をもとに四竹という鳴り物を持っておどります。京都中の大学生を中心におどり、京都の新しい魅力を発信しています。

●東北支援復興プロジェクト「繋ぐ～KYOTOHOKU」

東日本大震災以降、東北の方々に京炎 そでふれ！を通じて元気や笑顔を届けようと今年４年目の活動を行ってきました。おどりの披露に加え、留袖衣装体験などの交流企画を行い、最後は参加者全員で総おどりを行いました。福島大学災害ボランティアセンターの方々のご協力のもと、被災地見学や意見交流会等も行いました。

■訪問先

〈福島県〉

福島市松川工業団地第一応急仮設住宅／福島市笹谷東部応急仮設住宅／福島市南矢野目応急仮設住宅／ 二本松市杉内多目的運動広場仮設住宅／福島市　四季の里

〈宮城県〉

仙台市あすと長町第三復興公営住宅／名取市愛島東部団地仮設住宅

■事後報告会

京都学生祭典プレイベントPart1・Part2、そして京都学生祭典本祭において計３回、活動事後報告のためのブースを展開しました。東北を訪問した際に交流企画で制作した現地の方のメッセージの展示や、京都学生ＦＡＳＴ監修による防災教室、東北プロジェクトパートナー「吉村建設工業株式会社」様による耐震技術パネル展示、東北・熊本物産展、東北・熊本の良さを紹介するショートムービー上映会などを行いました。

●おどり披露・出前教室

今年度も、京炎 そでふれ！を様々な場所で披露させていただきました。学生たちの一生懸命な姿をお客様の心にお届けすることができました。また、たくさんの学校の生徒を対象に出前教室を行い、おどりの指導だけでなく、おどりの楽しさを伝えました。熱心に練習する子どもたちとのふれ合いは、大学生にとっても貴重な体験となりました。

■おもな出前教室先

京都市内外の小学校・中学校・高等学校・保育園・幼稚園

■おもなおどり披露先

京都サンガＦ.Ｃ.、京都フローラ、オリックスバファローズ、京都府･京都市各イベント、清水寺、二条城、京都府立植物園、伏見稲荷大社、石清水八幡宮、ひらかたパークなど

■第14回開催実績

（2015年10月12日～2016年10月9日）

･出前教室　　198回

･おどり披露　209回（まつり参加含む）

年 間 活 動

国際交流企画

9月11日（日）、イオンモールＫＹＯＴＯにて国際交流企画「日帰り世界一周旅行～global festa～」を開催しました。当日は、子どもから大人まで楽しむことができるブースやステージを通して多くの方に京都学生祭典を知ってもらい、ブースに待機列が出来るほどのたくさんのお客様に楽しんで頂くことができました。そして今回の企画は、今年度新たな試みとして行った、留学生が企画の考案段階から参加するという新たな国際交流活動を形にすることができた場でもありました。ベトナムのデンロン作り、留学生の母国の特色を生かしたブースを通して、お客様に世界を身近に感じていただけたのではないかと思います。最後に、様々な面でご協力くださいましたイオンモールＫＹＯＴＯの皆様方、そして企画実施までにご支援くださいましたすべての方に心より御礼申し上げます。

KYO-SENSE プロジェクト

KYO-SENSE パートナー：株式会社 ＧＳ ユアサ

KYO-SENSE プロジェクトとは京都学生祭典においてエコ活動を行うプロジェクトのことです。祭の規模が大きくなるにつれ、年々ゴミの量が増え続けていたことから、「環境にかける負担を減らしたい」「学生が身近な環境問題に取り組むことで、学生から京都へ、さらには日本全国へ新しいライフスタイルを提案したい」という思いのもと、2007年に縁日企画でリユース食器を導入し、翌年に「KYO-SENSE プロジェクト」を発足させました。

さらに、京都府知事、京都市長、大学コンソーシアム京都理事長らを賛同人として「KYO-SENSE 共同宣言」を発表し、学生が地域・企業と協力することで活動の基盤を作りました。以降、ゴミの排出削減や打ち水イベントなど、様々な環境問題に積極的に取り組んでいます。

企業交流会

第14回京都学生祭典実行委員会の協賛企業に参加していただき、10月26日（水）に企業交流会を実施しました。ご協賛いただいた企業の方に向け、実行委員が自己PRシートを作成し、各部署での祭典の活動を説明しながら、交流を行いました。企業の方にとっては実行委員と祭典の活動、学生にとってはご協賛いただいた企業様を、双方が理解する良い機会となりました。また、本企画の監修・司会・進行役として様々な大学の就職支援の講座などをしておられる成安造形大学 准教授の濱中倫秀様にご協力いただきました。誠にありがとうございました。

地域活性プロジェクト

このプロジェクトは、京都学生祭典の活動理念をより実現させるため、連携団体を公募し、京都の名所でイベントを実施するという、今年初の試みです。学生らしさを発揮しつつ、より地域に根ざした、京都の皆様に愛される祭りとなることを目指し大規模なプレイベントを2回実施しました。

ここでしかできないこと、この地でしか味わえない感動を、連携先の皆様とたくさんの会議を重ねることにより創出しました。連携先の増加を達成することだけに留まらず、多くの学生の輝く姿や学生らしさ溢れるパフォーマンスを来場者に楽しんでいただくとともに、実行委員にとっても価値ある経験と学びのある大変重要な企画となりました。

京都学生祭典プレイベントin伏見

開 催 日：2016年5月21日（土）

連 携 先：京阪ホールディングス株式会社／京阪電気鉄道株式会社、伏見大手筋商店街振興組合、公共財団法人 京都府公園公社、伏見港公園管理事務所

協力団体：大阪府立大学アカペラサークル Accord、モーハラマーリエ、ぴあぴあコミュニティサポート合同会社、南浜地域おやじの会、京菓子 富英堂、京都造形芸術大学、大学消防防災サークル 京都学生 FAST、木挽町青年団、京都造形芸術大学伏見＋Art、京都造形芸術大学　和太鼓サークル「悳」、みこしサークル　春秋、有限会社中村ローソク、リコージャパン株式会社、月桂冠㈱月桂冠大倉記念館、NPO 法人伏見観光協会、京都 B&S プロジェクト

来場者数：合計 16,858 名（企画参加述べ数※実行委員会調べ）
【内訳】
伏見港公園：12,426 名 伏見大手筋商店街：4,432 名（※ツアー参加者 38 名含む）

京都学生祭典プレイベントin出町柳

開 催 日：2016年7月9日（土）

連 携 先：京阪ホールディングス株式会社／京阪電気鉄道株式会社、出町商店街振興組合

スペシャルゲスト：吉本興業所属お笑い芸人「銀シャリ」、
京阪電車 6 代目おけいはん出町柳けい子（林真帆）　（※敬称略）

協力団体：京都アカペラサークル CrazyClef あをによし、龍谷大学アコースティックギターサークル、京都外国語大学ギター部、立命館ミュージカルサークル、モデルを目指す学生、キャンパスコレクション、ECC アーティスト美容専門学校、京都着物企画、舞 style、和っしょいモダン、アミスタ、ラスエストレジャーズ、立命館大学モダンジャズバレエ部、㈱応用芸術研究所「De まち」、京都上下水道局、鴨川を美しくする会、大学消防防災サークル京都学生 FAST

来場者数：合計 3,330 名（企画参加述べ数※実行委員会調べ）
【内訳】
京阪電車貸切イベント列車：197 名（ツアー参加者含む）、鴨川出町会場：2,328 名
糺の森会場：684 名、留学生ツアー：21 名、出町桝形商店街：100 名

第14回
京都学生祭典
本祭

2016年10月9日（日）

平安神宮前・岡崎プロムナード一帯

総来場者数 127,000人

※企画参加述べ数
（実行委員会調べ）

Opening

【企画紹介】

Opening は京都学生祭典の幕開けを飾る企画であり、神宮道一帯を使って行いました。「開演！京炎 そでふれ！」に始まり、「KYOTOFUL パレード」「式典」の 3 部構成で行われ「開演！京炎 そでふれ！」では京都中の約 1,000 人のおどり手が京炎 そでふれ！スペシャルバージョンを披露しました。神宮道を覆う息のそろった迫力ある演舞とおどり手の笑顔は、観る人に感動と元気を与えました。

「KYOTOFUL パレード」は KYOTO×HEARTFUL をテーマとし、来賓の方々を先頭に、京都北陵高校吹奏楽部によるマーチング、京都造形芸術大学「和太鼓 恵」による和太鼓演奏、そして昨年復活し、よりパワーアップした「京炎みこし」によるパフォーマンスを行いました。学生たちの熱い想い、好きなものに一生懸命になる情熱を盛り込んだパレードとなりました。

「式典」では共催団体の皆さまよりご挨拶をいただき、第 14 回京都学生祭典実行委員会実行委員長 北川拓海の開幕宣言により、華々しく京都学生祭典の開幕を告げました。

企画運営部 OPGF 企画統括
平安女学院大学 2 回生 高畑 咲季

企画運営部 OPGF・KSFA 企画 SA
京都光華女子大学 3 回生 四方 梓

【担当者の企画への想い】

京都学生祭典の幕開けにふさわしい企画となるように考えてきました。神宮道を目一杯使った「開演！京炎 そでふれ！」や、よりパワーアップした「京炎みこし」が登場した KYOTOFUL パレードを通して華やかな幕開けになると同時に輝く学生の姿を近くで感じることのできる Opening になったと思います！

祭典用語解説

SA･･･スペシャルアドバイザーの略。副部長。　空 P 企画･･･空間プロデュース企画の略。　OPGF企画…Opening・GrandFinaleの略。
本祭…10月9日に行われた京都学生祭典実行委員会主催のお祭りのこと。　そでコン･･･京炎 そでふれ！全国おどりコンテストの略。

縁日企画

企画運営部 縁日・空 P 企画 SA
同志社大学 3 回生 松田 直也

【企画紹介】

今年度、縁日企画では「食べて！見て！感じる学生のまち京都の魅力」をコンセプトに、大きく 4 つの企画を行いました。

●食企画「S-1 グランプリ」

前年に引き続き、今年度も大学生を対象としたグランプリを行いました。
「京野菜等 ×〇〇」をテーマに京野菜（京都で収穫された野菜）と〇〇には何か 1 つの食材を当てはめ、その 2 つの食材をメインにして料理を作り、来場者にその料理の提供をしていただくというものです。本祭当日は優勝を目指して 18 団体が競い合い、それぞれのチームが自分達の個性を出して、食でお祭りを盛り上げてくれました。

企画運営部 縁日企画統括
大谷大学 2 回生 松井 世那

グランプリ結果

優　勝：同志社大学　　拉麺研究会 「京野菜ベジまぜそば（京野菜トマト × 麺）」
準優勝：京都華頂大学　Luncheon 「九条ネギの白みそピッツァ（九条ネギ × ピッツァ）」
3　位：京都産業大学　神山祭実行委員会 「土手煮（九条ネギ × すじ肉）」
（協力）特定非営利活動法人 地域環境デザイン研究所 ecotone/ANDCOOKING

●ステージ企画

来場者との距離が近い中で出演者にパフォーマンスを行っていただき、来場者には、学生のパフォーマンスの迫力、学生のパワーをより身近に感じていただけるような企画を行いました。

（参加団体）立命館大学 出前ちんどん（ちんどん演奏）/ 京都大学・関西大学 カフカ（お笑い）/ 龍谷大学 うみいろ（三線）/ 京都女子大学落語研究会（お笑い）/ 京都大学書道部（書道パフォーマンス）/ 京都造形芸術大学 和太鼓「恵」（和太鼓演奏）

●展示企画

来場者と共に紙で平安神宮を完成させる張り紙アート企画、各大学の写真部の協力のもと、「私だけが知っている京都の顔」というテーマに沿った写真展を行いました。
（参加団体）京都産業大学写真部 / 京都造形芸術大学ちょい PHOTO/ 同志社大学写真同好会 / 花園大学写真部

●祭典マーク探し企画

岡崎公園内でストーリー性のある謎解き企画を行いました。謎解きのヒントを公園内の様々な場所に配置し、参加者には場内全体をめぐりながら企画を楽しんでいただきました。

【担当者の企画への想い】

縁日企画では学生の力によって岡崎公園を来場者の笑顔で溢れさせることを目標に、京都学生祭典の醍醐味である学生の力をどれだけ表現できるかを考えて企画作りに挑みました。

食べて！見て！
感じる学生のまち京都の魅力

京都·子ども企画

【企画紹介】

げんきっずランド2016では、「僕たち私たちの輝くきょうと輝くみらい」をテーマに、様々なブース企画とステージ企画を行い、子どもたちや保護者の皆さまに楽しんでいただきました。

●読もうよ！おはなしブース
・大学生による、京都をテーマにした絵本の読み聞かせ
・親子でふれ合いながら読み聞かせを楽しむブース

●おいでやす！秋のスポーツ大会ブース
・外に出て遊ぶ楽しさを感じてもらい、同時に日本らしさ溢れる町 京都を学んでもらえるようにと学生が考案した創作スポーツを体験できるブース

●みんなおいでよ！お絵かきハウス
・「大きくなったら何になる？」というテーマに沿った京都市内の幼稚園・保育園の園児による絵の展示
・錦林小学校の児童と一緒に制作した京野菜マップの展示
・地域活性プロジェクトに来場してくれた子どもたちによる絵日記、ぬり絵の展示
・岡崎にまつわるぬり絵ができるブース

●作ろう！遊ぼう！京都ふれあいブース
・千代紙を用いた着物の形のしおり作り
・竹のあたたかさや昔ながらの遊びの楽しさに触れてもらえる体験ブース

●カタチにしよう！にこにこスマイルブース
・京都や京都学生祭典にまつわるフレームなどを使った記念撮影ブース

●よってらっしゃいみてらっしゃい！夢のワンダーランドブース
・伏見大手筋商店街の夏の夜市で子どもたちに人気の手作り遊具を楽しむことのできるブース

●向日葵ステージ
・人形劇やけん玉のパフォーマンス、ご当地キャラクターや学生のおどり手などと一緒に子どもたちが体を動かしながら楽しめるステージ

企画運営部 京都・子ども企画SA
京都医療科学大学3回生
西川　綾香

企画運営部 京都・子ども企画統括
京都産業大学2回生
山本　夏葵

【担当者の企画への想い】

この企画は、来場者の皆さんが楽しみながら京都に興味を持てるにはどうすれば良いかを考えながら創り上げました。企画を通して、京都を好きになるきっかけを見つけてくれていたら嬉しいです。

国際企画

京都学生祭典では昨年より国際化への取り組みを積極的に行っており、第14回にあたる今年は留学生との交流を深め、留学生が京都で活躍できる場を作ることに尽力してきました。1年を通して留学生との清水寺ツアーや打ち水体験などのイベントを行いました。また留学生にも実行委員と同じようにスタッフとして企画に参加してもらい、京都学生祭典本祭ではミサンガ、世界各国の名所を下絵とした砂絵、ベトナムのランタンなどを来場者の子ども達に作ってもらいました。さらに中国や韓国の伝統的な遊びを体験するコーナーもあり、ブース内はスタッフの留学生と子ども達の笑顔で溢れていました。国際色豊かな企画を作り上げることができたと感じています。

★留学生実行委員8名
（シンガポール1名、中国2名、台湾2名、イギリス1名、ベトナム1名、インドネシア1名）

ご当地キャラクター企画

ご当地キャラクター企画は、25体の京都各地の個性豊かなご当地キャラクターが来場者との交流を図る企画です。「ストラックアウト」、「ご当地キャラクターコレクション」、「キャラクターさんが転んだ」、「ステージ企画」の4つの企画を行い、ステージ企画では「キャラクタークイズ」、「旗揚げゲーム」、「キャラクター × 京炎 そでふれ」をしました。この企画により、子ども達の笑顔がたくさんあふれ、京都各地の魅力を感じていただくことができました。

【出演キャラクター】
エコちゃん、お玉ちゃん、かみぎゅうくん、ガオ太郎、キタイくん、三条と～り、しもんちゃん、しろんちゃん、澄都くん、底冷雪子、たけのこタッキー、たわわちゃん、ちはや姫、ちきゅまる、てらぽん、なやまっち、にしきょう・たけにょん、ひかりちゃん、深草うずらの吉兆くん、ふしみこちゃん、伏見もも丸、まゆまろ、まゆピー、ゆっくりちゃん、801ちゃん

そでふれ the world

そでふれ the worldでは、来場者の皆様と一緒に京炎 そでふれ！簡単バージョンをおどって世代を超えた交流の場を作り、京炎 そでふれ！の世界を楽しんでいただきました。また会場にはフェイスペイントコーナーやちび竹（京炎 そでふれ！の演舞で使用する鳴り物「四竹」のミニ版）装飾コーナー、おどり手の衣装の着付体験コーナーもあり、子どもや外国人の方にも人気の企画となりました。

より多くのお客様に京炎 そでふれ！ホストチームを知って、触れていただくために各ホストチームのグッズ販売を行いました。また全チームの缶バッチの人気コンテスト「缶バッチコレクション」を行い、グッズを購入していただいたお客さまにどのデザインが一番良かったかを投票していただきました。

●缶バッチコレクション投票結果（総投票数181票）
優　勝：京炎 そでふれ！志舞踊（同志社大学・同志社女子大学・大谷大学）
準優勝：京炎 そでふれ！彩京前線（京都大学・京都府立大学）
3　位：京炎 そでふれ！Tacchi（京都橘大学）

空間プロデュース企画

【企画紹介】

空間プロデュース企画は今年度から登場した企画です。「心に残る非日常的空間」をコンセプトに掲げ、すべての会場に一体感と明るさをもたらせられるよう企画を考案しました。お客様が、普段感じること、観ることのできないものを体験してもらい、その空間にいるだけで楽しめるような雰囲気づくりをすることで、非日常的な空間を体験していただきました。ロームスクエアでのライブペイントは、特に非日常的な空間を作ることができました。ライブペイントとは、「未完成の絵」を「完成に向けて描きあげる工程」を見せる芸術で、プロのアーティスト「padGALLERY」と一緒に行いました。テント二張分（縦 3.6m× 横 10.8m）を全て段ボールで囲んで一つの空間を作り、その空間が家や街並みへと変化していく工程を立ち止まって見てくださる方もいらっしゃり、完成度の高い作品を作ることができました。また「げんきっずランド 2016」の会場では、門の装飾や会場内でのバルーンアートの配布を行い、来場した子どもたちに喜んでもらいました。その他にも、統一したフラッグの設置など、様々なコーディネートで、全体的にまとまりのある会場づくりを行いました。

企画運営部 空P企画統括
京都橘大学 3回生 雀部　まい

【担当者の企画への想い】

昨年よりも会場全体を明るく一体感が出るように企画を考えてきました。本祭当日まで企画が形になるのを想像できませんでしたが、実際に会場装飾をすることで全体的にカラフルでかわいらしい空間づくりができ、初めての試みながら成果を出すことができました。

京炎 そでふれ！全国おどりコンテスト

【企画紹介】

京都らしい曲・振り・衣装をもとに四竹を手に持って踊る、京都学生祭典から生まれた創作おどり京炎 そでふれ！で競う「京炎 そでふれ！部門」と様々なジャンルのおどりで競う「マルチ部門」の 2 つの部門に分かれてコンテストを実施しました。また、今年度は審査員による審査に加え観客投票も実施し、来場者の皆さまによりコンテストを楽しんでいただきました。また、京都明徳高等学校ダンス部 M's E Crew[エムズ イー クルー] をゲストとして招き、古都京都をテーマにした圧巻のダンスを披露していただいたほか、審査を行わない披露部門ではたくさんの団体にご出演いただきました。また、株式会社 Ostance[オースタンス] と同志社大学ダンスサークル Enchainement[アンシェヌマン] の合作によるフラッシュモブでは、演出にこだわり、驚きと感動をあたえるパフォーマンスで来場者を魅了しました。

【参加団体】

京炎 そでふれ！部門 15 団体 / マルチ部門 33 団体 / 披露部門 53 団体

【コンテスト結果】

●京炎 そでふれ！部門

優　勝：京炎 そでふれ！京小町（京都女子大学）

準優勝：京炎 そでふれ！彩京前線（京都大学・京都府立大学）

3　位：京炎 そでふれ！花風姿（同志社女子大学）

（特別賞）ファミリー賞：京炎 そでふれ！おどりっつ（立命館大学）

●マルチ部門

優　勝： 京都女子大学創作舞踊部

準優勝： P→SEN

3　位： CHACHA☆CAN＆GA チャ Comp

（特別賞）新人賞： Merry Bee/ 衣装賞：京学よさこい連　逢華

/ ファミリー賞：岡山うらじゃ連　四季　鐘舞

企画運営部 そでコン企画統括
京都女子大学 2回生 辻本　理佐子

【担当者の企画への想い】

京炎 そでふれ！全国おどりコンテスト企画では、おどりに携わっている人が活躍できる場をより多く作りたいという想いで取り組んできました。本祭当日には、出演者と来場者ともにたくさんの笑顔がみられて満足しています。

Kyoto Student Fashion Award

【企画紹介】

Kyoto Student Fashion Award は京都学生祭典にこれまでなかった、「ファッション」という新しいツールを用いることで、来場者の方々に学生のパワーやファッションの魅力を伝えることのできる企画として、今年新たに誕生しました。

本祭では、頭から足のつま先まで全身を審査対象とした、モデル、服飾デザイン、ヘアメイクの 3 ジャンルオールコーディネートのファッションコンテストを行いました。出演者の作りたいもの、見せたいものを大勢の来場者に見ていただくために、「自分らしさ」をテーマとして掲げ、より自由度の高いファッションコンテストを目指しました。服飾のデザインと制作を行った学生、ヘアメイクを手がけた学生にもステージへ上がってもらい、チーム全員にスポットライトを当て、コンセプトである「三位一体で魅せる華」の実現を目指しました。出演者全員に輝いてもらうということに力を注いだ京都学生祭典ならではのコンテストになったのでは、と感じています。初企画ということもあり右も左もわからない状態でスタートした企画でしたが、出演者と実行委員が共に満足のできる、学生が本気で輝く晴れ舞台を来場者にお届けすることが出来たのではないかと思います。

【コンテスト結果】

総　　合　　賞：MARS
モデル部門賞：blanc
ヘアメイク部門賞：lopine
服飾部門賞：E
審査員特別賞：Lofty-Dream

【担当者の企画への想い】

7 月に行ったプレイベントにおいて、出演して下さる方々が楽しんでいなければ、お客さんを笑顔にすることはできない事を痛感させられました。部員一同その悔しさを胸に、出演者の方々が楽しめる、一生懸命になれるコンテスト作りを最優先に心がけて準備をしてまいりました。その結果、お客さんをはじめ、出演者、実行委員みんなが笑顔になれる素晴らしいコンテストになったと思います。

【企画紹介】

Kyoto Student Music Award は、第 1 回京都学生祭典から開催されてきた学生を対象にした音楽コンテストです。第 1 回のグランプリであるバンド Chicago Poodle は、これをきっかけにメジャーデビューを果たしました。KSMA（けーすま）の愛称で、第 1 回以降多くの才能ある学生に出演していただいていましたが、コンテストの会場を確保することができなくなったことを理由に、数年間開催を見合わせてきました。しかし、実行委員の中でも再開したいという想いが高まり、昨年の第 13 回京都学生祭典で小規模ながら復活を遂げました。

そして、今年の第 14 回京都学生祭典では、エントリー数やステージ数を昨年度より大幅に増やし、レベルアップしたコンテストとなりました。昨年度の KSMA では、オリジナル曲のみを対象としていましたが、今年度は音楽を楽しむ学生にとってより身近なコンテストとなるよう、コピー曲でのエントリーができるようになりました。また、昨年はバンドや弾き語りのシンガーがみな 1 つの賞を競っていましたが、弾き語りなどのソロ音楽の良さと複数人で作り上げるバンドなどのグループの良さを同じ基準で審査するのはもったいないという想いから、ソロ部門とグループ部門を設けました。さらにジャンルを絞らず、様々な音楽を対象としたことでクラシックやフラメンコなど新たなジャンルの方にも出演していただきました。

【コンテスト結果】

《ソロ部門》	《グループ部門》
優　勝：中園 勇樹	優　勝：The Lump of Sugar
準優勝：wan	準優勝：何かしら楽団
3　位：nooko	3　位：美晴

【担当者の企画への想い】

昨年の Kyoto Student Music Award 企画を超えられるようにと思い、また同じ失敗をしないようにと部員と一緒に頑張ってきました。同時に、どうすれば来場者や出演団体が満足してくださるステージを作れるのかを考えてきました。当日は、出演団体、来場者共に楽しそうにしていて頑張ってきて良かったと思えました。

Kyoto Student Music Award

Grand Finale

【企画紹介】

Grand Finaleは、蓮ステージにて行われた、京都学生祭典本祭の最後を飾る企画です。例年行われているおどりの企画に加え、本祭当日に行われた各企画とのコラボレーション企画、そして今年度の新たな試みであるプロジェクションマッピングを行いました。各企画のコラボレーションでは、日中に行われたKyoto Student Music Award、Kyoto Student Fashion Award、食企画「S-1グランプリ」、京炎 そでふれ！全国おどりコンテストの入賞者の発表や表彰、パフォーマンスを行いました。おどりや音楽、ファッション等日頃その分野で活躍する学生たちの本気と、好きなことへの情熱が溢れるパフォーマンスは圧巻で、見る人に感動を与えました。また、京都子ども企画とのコラボレーションでは、京都造形芸術大学の学生によって描かれた満開のひまわりの絵と子どもたちが描いたひまわりの絵を合わせ、1つの絵にしました。そこに京都橘大学書道部による書道パフォーマンスを行い、1つの作品を創り上げました。京炎 そでふれ！スペシャルバージョンは、オーディションで選ばれた52名のおどり手による迫力のある演舞で会場を沸かせました。今年度からは、新たに取り入れられた「はずみ」を加えての演舞となり、さらに勢いのある学生の姿を来場者に披露することができました。そして、今年度の新たな挑戦であるプロジェクションマッピングでは、京都造形芸術大学の学生によって作成された映像が、蓮ステージ横に設置された大きな提灯に照らされました。さらに、その光に京都造形芸術大学「和太鼓 惠」による和太鼓のパフォーマンスが加わり、今までの京都学生祭典にはなかった「芸術」の力を感じるステージとなりました。

終盤には、来場者を巻き込んだ総おどりで、出演者と来場者が会場でひとつになりました。今年度のGrand Finaleでは、各企画とのコラボレーションにより、音楽からおどり、ファッション、食、書道等多方面で活躍する多くの学生を巻き込むことができました。さらに、今まであまり関わることのなかった芸術を学ぶ学生を巻き込み、様々な方面で頑張る、熱い想いを持った学生の集まったGrand Finaleは京都三大祭りにはない、「学生らしさ」溢れる力強いステージとなりました。

【担当者の企画への想い】

Grand Finaleでは、より多くのジャンルで輝く学生たちの姿をステージに映し出せるよう日々企画を考えてきました。今年は、目玉企画としてプロジェクションマッピングに挑戦し、映像作成や音楽に至るまで新たなジャンルで輝く学生たちの姿を取り上げることができ、学生たちの熱い想いの詰まったフィナーレにふさわしいステージ企画になったと思います！

実行委員インタビュー

「学生による京都四大祭りへの挑戦」のテーマのもと、本祭の成功に向け努力した実行委員3人にインタビューを行いました。京都学生祭典をより多くの方に知って頂くために広報活動を行う広報部、地域の方や留学生と交流し、共により良い関係を築く年間交流部、活動資金を集めるために企業訪問を重ねる営業部。3者3様の今年度の祭典活動を振り返り、活動の原動力と得られたこと、来年度の抱負について語っていただきました。

稲垣知沙

広報部　メディア部門
立命館大学産業社会学部　１回生

―自部署、自部門の紹介をお願いします。

私の所属する広報部では、チラシやパンフレットの作成、配布、またホームページや公式アカウントの管理といった祭典活動の宣伝など、広報に関わること全てを担当しています。メディア部門では、新聞やフリーペーパーなどへの掲載依頼や、ラジオ、テレビへの出演依頼など、メディアと関わる活動全般を行っています。

―十四回を振り返って、大変だったことは何ですか。また、それは自分をどんな風に成長させたと感じますか。

イベントサイトへの掲載依頼の量が多くとても大変でした。読み手を惹きつけるための文章表現など、ひとつひとつ自分なりに工夫して作りました。作業量の多さから、他の人に頼もうかなと思ったこともありましたが、同じ一回生や先輩方が私より頑張っている姿をみると、負けられないと思い頑張ることができました。

自分が辛い状況になって改めて周りの頑張りや支えてくれている人のありがたさに気づくことができたのは、自分にとって成長だと思います。

―稲垣さんは広報部のムードメーカー的な存在ですが、これから自分の長所をどのように活かしていきたいと考えていますか。

広報部はみんな楽しい人ばかりで、私だけがムードメーカーではないと思うのですが、もしそう思っていただけているのであればタスクに追われて大変なときこそ、周りを笑顔にできる存在になりたいと思います。

―来年度に向けた抱負を教えてください。

広報部は他部署の頑張りや情熱を直接お客様に届ける橋渡しができる素晴らしい部署だと思っています。今年初めて本祭を経験し、実行委員みんなの情熱を強く感じることができました。来年度はより多くのお客様にその情熱を感じ取っていただけるよう、積極的に広報活動に励みたいと思っています。

多田勇真

年間交流部　打ち水企画統括
京都産業大学京都文化学部　１回生

―自部署、自部門の紹介をお願いします。

年間交流部はその名の通り、年間を通して地域の人たちと交流していく部署です。毎月の夜間パトロールへの参加や、地域のお祭りのお手伝いなどを行っています。

―一年間の活動で、多田くんが大切にしてきたことは何ですか。

地域の方と関わり、子どもやお年寄りなど幅広い層の方と祭典を繋ぐことを大切にしてきました。例えば、打ち水の時には伏見地域の方などに、また「京の七夕」でのみこし展示の時には堀川地域の方にお世話になり、祭典は多くの人に支えられているのだと感じました。また、みこしデザインの変更の過程で関わった方々から、他のお祭りにも参加しないかと声をかけていただいた経験から、もっと地域の方と祭典を近づけたい、この出会いを大切にしていきたいと思うようになりました。

―多田くんは一回生ながらも、ものすごく精力的に祭典活動に打ち込んでいますが、その原動力となるものは何ですか。

お祭りやイベントが元々好きで年間交流部での活動自体が楽しかったので打ち込めました。それと、支えてくれる先輩方のことがすごく好きで仲良くなりたい、自分も支えたいという思いから頑張れました。

―今年一年を振り返って、十四回での課題は何だと思いますか。

夏祭りで関わった人や祭典の短期スタッフとして活動してくれた人、訪問先で出会った人などにもっと近づけたのではないかと思います。この反省から、一度きりの縁で出会った人をもっと祭典に巻き込んでいきたいという思いが生まれました。

―来年度に向けた抱負を教えてください。

交流してきた方々を大切にしながら新しい繋がりを作って、祭典の活動を京都中に広めていきたいと思っています。学生を主として、京都中の人を巻き込んでいきたいです。また、学生らしい若さや情熱を外部の方に伝えていくことで祭典の魅力に気づく人もいるのではないかと思います。祭典を応援してくださる団体さんなどにも会社と取引しているように思わせるのではなく、「ああ若いな、いいな」と思ってもらえるような熱意を持って接していきたいです。

―自部署、自部門の紹介をお願いします。

営業部は、京都学生祭典の魅力を企業様に伝え、ご支援を募ることを主な活動としています。特に企業管理部門は協賛企業様と密に連絡をとり、企業様の意向を聞きながら京都学生祭典をより良いものにしていくことに力を注いでいます。

―舩越さんは今年で二年目の祭典活動になりますが一年前と比べて心境の変化があれば教えて下さい。

一年生の時は自分のことで精一杯で、営業部全体をよくしようとは全く考えられていませんでした。しかし、二回生では全体を見られるようになり、後輩が活動しやすい場や、力を発揮しやすい雰囲気を作りたい、と思うようになりました。理想は今の一回生が「祭典っておもしろい！来年も続けたい！」と思ってくれるような活動をすることです。

―とても大きな変化ですね。では、祭典活動を自分の将来にどのように活かしていきたいですか。

異なる価値観の人と一つのものを作り上げるには、一致団結することが必要不可欠です。その過程で学んだ、「まずは聞いて、理解して」の姿勢を活かしたいと思っています。今までは話すのが好き、ただそれだけでしたが、今回の活動を通して聞くことが楽しくなっている自分に気がつきました。私は将来教師になりたいと思っています。この経験を活かして人の言葉に耳を傾け、いろいろな考え方や意見を持っている人を理解し、それぞれの個性を引っ張っていけるような教師になれたらという目標ができました。そう思えたのは祭典があったからこそでした。

―来年度に向けた抱負を教えてください。

来年はアニバーサリー、十五周年。しかし十五回だからすごいっていうだけで終わりたくはありません。実行委員や支えてくださる企業様、地域の方々がいたからこそ今があると思うし、十五回というのはこれまでの積み重ねがあった故のこと。その実績を大切に将来にバトンを繋げる活動にしていきたいです。

また、もっと実行委員同士がお互いの存在を認識し共感し、活動に感謝できるよう明確な目標をもっていきたいです。そしてそのような雰囲気作りをしていきたいです。

舩越美里

営業部　企業管理部門
京都女子大学文学部　２回生

新聞・大学広報誌　掲載一覧

2016 年 5 月 5 日　河北新報朝刊 25 面
【創作踊り被災者とともに】

2016 年 5 月 22 日　朝日新聞朝刊 26 面
【学生祭典　本番へ気合十分】

2016 年 5 月 22 日　読売新聞朝刊 29 面
【京都学生祭典　ダンスで PR】

京都新聞　2016 年 9 月 13 日朝刊 25 面
【120 人、無事と成功を祈願】

京都新聞　　2016 年 10 月 1 日朝刊 17 面
【地域交流を深め、学生のまち　京都を活性化】

京都新聞　　2016 年 10 月 1 日朝刊 18-19 面

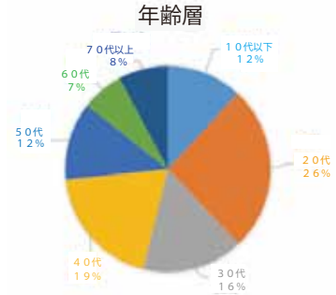
京都新聞　　2016 年 10 月 1 日朝刊 20 面

同志社大学 One Purpose 10 月号 2016 年 10 月 1 日

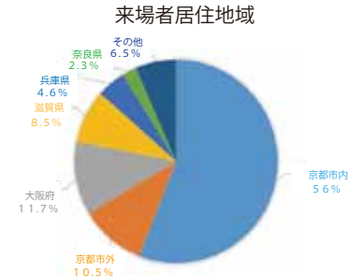
京都新聞　2016 年 10 月 10 日朝刊 23 面
【京都学生祭典　創作演舞で 1000 人躍動】

本祭アンケート（サンプル数：652）

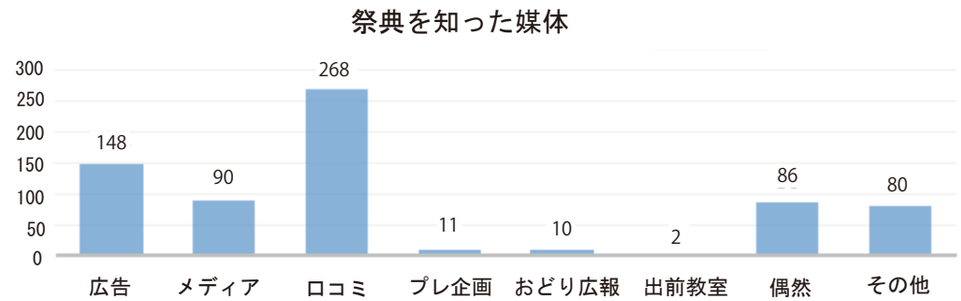
問 1.　来場者の年齢層（有効回答数：631）



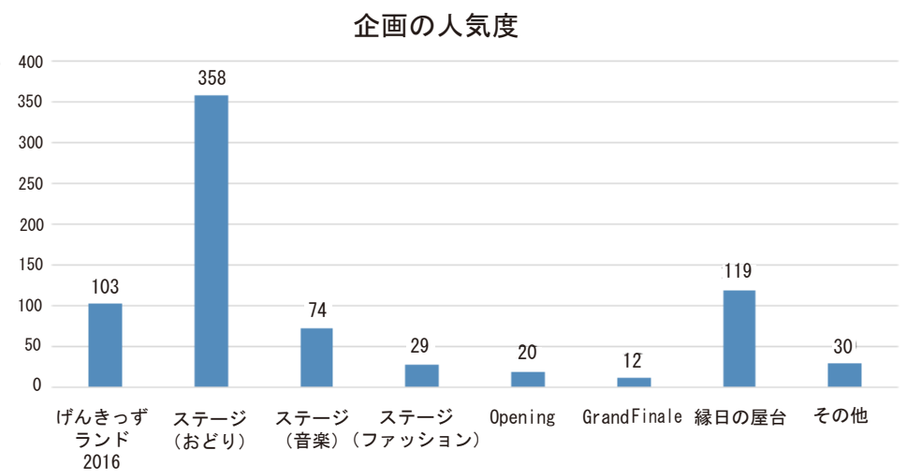
問 2.　来場者の居住地域（有効回答数：650）



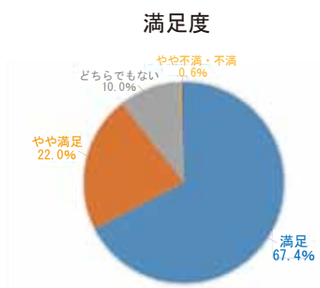
問 3.　京都学生祭典を知った媒体　※複数回答可（有効回答数：627）



問4.　企画の人気度　※複数回答可（有効回答数：588）



問5.　本祭の満足度（有効回答数：641）



制作物一覧

年賀状	名刺	メインビジュアル募集チラシ	協賛企業・個人サポーター募集チラシ	京都学生祭典紹介チラシ
公式パンフレット	新実行委員募集三角柱	新実行委員募集ポスター	新実行委員募集チラシ	スタッフＴシャツ
本祭告知うちわ	本祭告知ポスター	本祭告知チラシ（A4）	本祭告知チラシ（A5）	本祭当日ガイドマップ
地域活性プロジェクト 京都学生祭典プレイベントin伏見ポスター	地域活性プロジェクト 京都学生祭典プレイベントin伏見チラシ	地域活性プロジェクト 京都学生祭典プレイベント in 伏見横断幕	地域活性プロジェクト 京都学生祭典プレイベント in 出町柳ポスター	地域活性プロジェクト 京都学生祭典プレイベントin出町柳チラシ
京都市営地下鉄・市バス 中吊りポスター	京都市政広報板ポスター	市バス経路変更・交通規制 案内チラシ	クリアファイル	

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 加盟校

●国立大学

京都大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学

●公立大学

京都市立芸術大学
京都府立大学
京都府立医科大学
福知山公立大学

●私立大学・短期大学

池坊短期大学
大谷大学
大谷大学短期大学部
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都外国語短期大学
京都学園大学
京都華頂大学
華頂短期大学
京都看護大学
京都経済短期大学
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都嵯峨芸術大学
京都嵯峨芸術大学短期大学部
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都西山短期大学
京都聖母女学院短期大学
京都造形芸術大学
京都橘大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
京都文教大学
京都文教短期大学
京都薬科大学
種智院大学
成安造形大学
成美大学短期大学部
同志社大学
同志社女子大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
平安女学院大学短期大学部
明治国際医療大学
立命館大学
龍谷大学
龍谷大学短期大学部
大阪医療大学
京都情報大学院大学
放送大学　京都学習センター

協賛企業一覧 / 個人サポーター

●協賛企業一覧

今年も京都を中心に多くの企業様よりご協賛を賜りました。ご支援下さる企業の皆様と触れ合う中で、多くの激励、またご指導のお言葉を頂きました。
それらの一つ一つが私たちの日々の活動の励みとなっています。いつも本当にありがとうございます。

●スペシャルパートナー協賛

ローム株式会社

●KYO-SENSE パートナー協賛

株式会社 ＧＳユアサ

アットホーム株式会社
イオンモール KYOTO
株式会社キャリアパワー
京都信用金庫
株式会社　長栄
ニチコン株式会社
日本写真印刷株式会社
株式会社 堀場製作所

ANA
アランヴェールホテル京都
株式会社 京進
京セラ株式会社
株式会社 京都銀行
京都中央信用金庫
株式会社　ジェイ・エス・ビー
株式会社 島津製作所
Jukuwork（求人サイト）
宝酒造 株式会社
タキイ種苗株式会社
土山印刷株式会社
日東薬品工業株式会社
株式会社ファミリーマート
株式会社村田製作所
吉村建設工業株式会社
株式会社ワコール

株式会社　アイビーインターナショナル
株式会社朝日クッキング社
有限会社アトリエニライ
安藤不動産株式会社
いきいきうどん烏丸御池店
ウィズユー
株式会社おいかぜ
おつかいもの本舗
オムロン株式会社
株式会社カワタキコーポレーション
株式会社貴久樹
株式会社 京都駅観光デパート
京都ステーションセンター株式会社
京つけもの 大安
京都体育施設株式会社
京都電子工業株式会社
近建ビル管理株式会社
近鉄ビルサービス株式会社
株式会社きんでん京都支店
955（グーココ）ニュース
月桂冠株式会社
株式会社公益社
向塾
シライ電子工業株式会社
成基 コミュニティグループ
株式会社　ゼネック
株式会社象彦
株式会社塚腰運送
筒城造園土木株式会社
東京アカデミー
特定非営利活動法人　伏見観光協会
内定塾
株式会社ナベル
日本教育旅行株式会社
株式会社 野田屋
株式会社羽藤防災
パナソニック ES 防災システムズ株式会社
株式会社ビーイング
ＢＥＡＣＯＮ ＫＹＯＴＯ
株式会社福寿園
ベルサンテスタッフ株式会社
株式会社 堀場エステック
株式会社舞扇堂
株式会社　丸久小山園
ヤマト運輸株式会社　京都主管支店
株式会社ユーシン精機
リコージャパン株式会社
株式会社レオパレス２１
六和証券株式会社
株式会社ローバー都市建設事務所
ワタベウェディング株式会社

●物品協賛

イスタンブール　サライ
今西製菓株式会社
小川珈琲株式会社
株式会社清水漬物商会
株式会社 花工房
京都タワー
日本航空株式会社
有限会社昇苑くみひもよーじや

●個人サポーター

今年は、合計 245 組 887，000 円のご支援を賜りました。それらは、京都学生祭典実行委員会の活動費等に大切に使わせて頂きました。誠にありがとうございました。

青木育代
青木一雄
青木進
秋山翔
生田稔
一ノ宮和己
稲原秀一
井上重樹
井上智之
今西敏行
岩崎一也
上西阿沙
魚住幸司
宇敷みゆき
内田昌一
海野隆宏
梅野紘也
遠藤正彦
大江偉夫
大川眞
大塚經雄
大宮正
岡田耕一
岡本豊洋
柿迫温
片岡宏二
桂良彦
門川都
椛木祐美
（株）円居 伊藤英彰
河内誠一
川口聡太
神田一郎
上林昌三
北尾哲郎
北川賢治
木下公一
木下博史
木村光博
京つけもの 出町なかにし
京都医療科学大学 山口佳紀
京都市総合企画局職員有志
京都女子大学 居相美穂
京都女子大学 学生生活センター一同
京都女子大学 学生部長 田上稔
京都女子大学 樫村健一
京都女子大学 川瀬裕之
京都女子大学 教務部 連携推進課一同
京都女子大学 経営企画・広報室
京都女子大学 酒井貴雄
京都女子大学 芝原玄記
京都女子大学 鈴木康治
京都女子大学 竹内康弘
京都女子大学 鳥谷一生
京都女子大学 入学センター一同
京都女子大学 林忠行
京都女子大学 森岡大樹
京都女子大学 諸岡晴美
京都女子大学 山田さやか
京都府文化スポーツ部大学政策課
京の三条まちづくり協議会
京や
栩谷晴雄
熊谷貴夫
蔵岡一彦
倉橋基
黒竹節人
児島健一
小竹治
小林正幸
小松一道
酒井睦美
さが喜
櫻井秀志
佐々木喜一
佐藤伸樹
佐野剛一
茶房 いせはん
澤邉吉信
篠原敏晴
島本久蔵
生祥自治連合会
杉本克宏
杉本勤
杉本正樹
外山泰久
大学コンソーシアム京都 学生交流事業部
大黒屋 塩山大介
第 7 回おどり普及部長
第 9 回京都学生祭典実行委員会 執行部一同
瀧上光広
瀧田輝己
竹内賢治
武田理
武田隆司
竹之内正臣
館脇一枝
館脇敏広
田中あい
田中俊介
田中翔
田中俊雄
田邉志門
谷口和也
谷本将崇
太野垣裕二
樽谷和良
千振和雄
堤大地
堤浩子
続木創
同志社大学 太田博之
冨永泰憲
永井弘二
永井雄一
中尾友美
中澤忠嗣
中澤康司
中野秀紀
永野正
中村隆
中村俊次
中村憲夫
中村恵行
中本圭子
西野哲史
西村啓
西村信行
西村裕行
野田良男
萩原健斗
萩原滋樹
泊亜美
長谷川佐喜男
長谷川茂
秦健二
林誠一郎
林英子
原悟
伴克亘
福田治夫
福永荘三
藤田國夫
伏見大手筋商店街振興組合
船越博之
古澤克也
堀川と堀川通を美しくする会
堀田幸平
槇野常美
増井和久
松井みち子
松浦優子
松下保幸
松本幸治
真鍋雄一郎
馬渡明
三ヶ田紗矢佳
三ヶ田匠見
溝口勝啓
三輪泰之
向井博一
向島翔也
向島夏絵
森昌哉
森地輝々雄
山口巌
山口岳士
山下泰生
山本尚樹
吉崎忠雄
吉田典生
吉谷正紀
頼光拓真
龍昭次
和久田修平
渡邉和隆
渡邉悠斗

五十音順
（※敬称略）

実行委員名簿 / 所属大学一覧

実行委員名簿（全 233 名）

【実行委員長】
北川 拓海

【副実行委員長】
青木 亮磨
北岡 祐典
竹内 夢乃

【企画運営部】
堀江 昂汰（部長）
湧川 知子
松田 直也
四方 梓
西川 綾香
湯川 蓉子
神田 愛弓

（KSFA 企画）
杉山 健
若林 花奈
池上 優衣
米田 信
古賀 友也
熊澤 玲香
奥山 佳吾
源平 七海
小池 萌音
菊池 砂絵
福地 将大
古谷 有祐実
西 智美
瀧川 和佳那
高宮 菜緒

（KSMA 企画）
浅野 菜月
下世 彩加
石井 美羽
澤田 実泉
南 遊凱
小野寺 陽美

（OPGF 企画）
高畑 咲季
山本 麻由
山内 健也
新界 亮太
竹田 雄亮
越智 安梨沙
宇敷 美祐
道山 加奈子
原田 真弥
久保 萌香
吉岡 瑞貴
玄甫 怜子
岩波 伽歩

（縁日企画）
松井 世那
川本 楓
坂井 茜
加藤 涼
高木 麻央
三輪 浩朔
竹中 涼峰
左野 伸弥
一宮 夏希
高山 ひかり

（そでコン企画）
辻本 理佐子
藤木 優圭
米田 陽介
吉田 佑
瀬野 満梨香
山上 由佳
春名 望
上田 梨花

（京都・子ども企画）
山本 夏葵
蔵元 美桜
杉田 直隆
小林 知美
深田 詩央里
吉澤 悠祈
堀田 千尋
辻 優花
村上 絵麻
吉岡 淑
加賀山 千晶
池下 美佳
足立 杏美

（空間プロデュース企画）
雀部 まい
斉藤 翔子
中平 一未
新ケ江 光恵
工藤 彩伽
斉藤 翔子
中平 一未
新ケ江 光恵
工藤 彩伽
山内 早弥子

【営業部】
松下 千紘（部長）
奥野 文也
北崎 里佳
北村 汐里
樹下 莉奈
境野 達矢
佐野 彩華
竹内 有衣
西江 有加
舩越 美里
松山 望乃
宮本 拓弥
吉野 智貴
渡邊 芽里奈

【広報部】
荒木 冬威（部長）
川島 望
川野 雄基
藤原 圭佑
佐藤 怜奈
木村 咲季
石井 真裕子
石川 沙利亜
伊津 雪菜
稲垣 知沙
上床 勇樹
大竹 杏奈
金子 将之
河上 太雅
窪田 ひかり
越本 綾香
五味 侑未加
古村 真由
近藤 なのは
西郷 舞香
在路 桃佳
坂口 剛
佐藤 開
佐藤 風歌
高垣 花菜
高島 由妃
瀧上 友輝
樽谷 真幸
津田 栞
土谷 郁水
成田 智海
原 美咲
堀田 大貴
牧 竜太
松本 唯
光永 奈央
南薗 遥
福島 葉月
三宅 史夏
元永 梨紗
桃井 俊彦
山根 青葉
弓場 光莉
横山 彰子
吉崎 梨賀
芳野 都馬

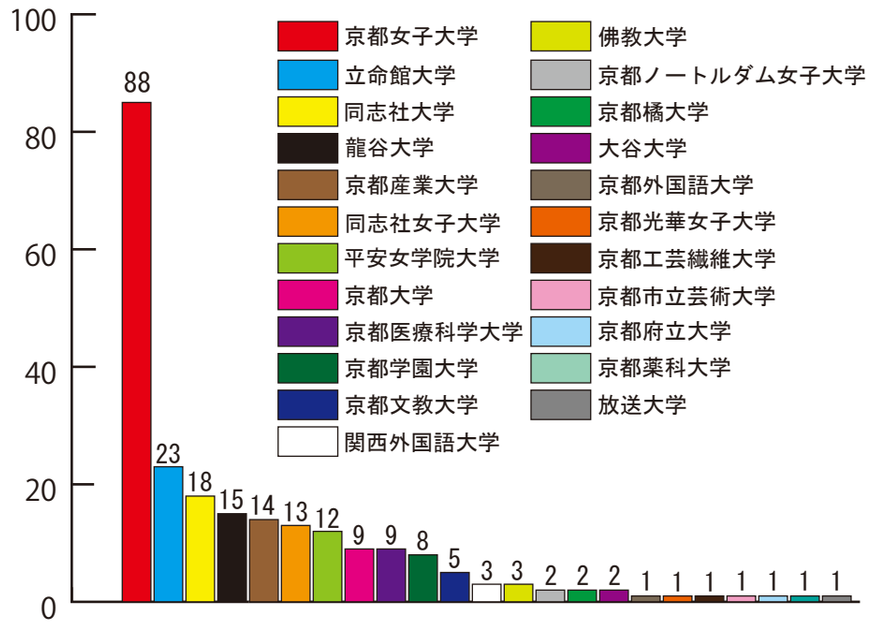
【おどり普及部】
近藤 彰太（部長）
池田 崇人
犬童 あいこ
太田 里穂
小和田 奈波
清水 麻衣
反町 駿介
長竹 竜典
西田 まどか
野村 陽奈子
畑中 春菜
林 みなみ
万月 舞優
水谷 聡志
山本 真優
渡邊 俊介
巻田 奏
野村 陽奈子

【警備部】
小林 加奈（部長）
池田 友哉
今川 英美利
井上 弓絵
上藤 大空
喜馬 爽
地家 滞香
新長 捺未
高田 梨緒
田中 晴菜
田鍋 亜香音
長濱 奈央
高田 梨緒
田中 晴菜
田鍋 亜香音
長濱 奈央
西川 弥芳
林 穂乃花
廣松 財造
深町 奈月子
藤井 健志朗
松浦 宏太
村上 萌恵
森田 寛明
山中 菜津美
山本 真由香
横山 広貴
吉川 雅樹

【年間交流部】
佐藤 希美（部長）
明山 菜々子
吾郷 有希
尼崎 有紗
伊久美 達成
石永 理紗
柿迫 利香
河内 由莉菜
菊川 惟人
北川 奈々
黒田 美春
坂田 萌絵
佐々木 良輔
高田 侑果
高橋 里沙
竹内 菜奈
多田 勇真
出原 希望
戸崎 崇文
西川 文悟
西原 里咲
福岡 英実
福崎 瑛里子
福田 真梨乃
藤原 菜々緒
細木 菜央
町田 彩実
森井 春陽
森下 友美子
渡辺 慶太郎

【総務部】
岡本 彩葉（部長）
今川 桃子
岡田 裕規
亀田 瞭汰
川北 実穂
川瀬 美笙
鈴木 真理子
富田 夏実
中西 彩華
中野 さつき
中村 翔太
別府 晶子
本田 有沙
前田 智子
宮川 紗希
村主 瀬成
森田 優希
吉冨 恵

所属大学一覧（全23大学）



主　　催：京都学生祭典実行委員会

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下ル　キャンパスプラザ京都内

TEL：075-353-9432　E-mail：festa@consortium.or.jp

URL：http://kyoto-gakuseisaiten.com/

共　　催：京都学生祭典組織委員会

（京都府／京都市／京都商工会議所／一般社団法人京都経済同友会／公益財団法人 大学コンソーシアム京都）

特別協力：平安神宮

後　　援：京都府教育委員会／京都市教育委員会／公益社団法人　京都青年会議所／公益社団法人 京都市観光協会／公益財団法人京都和装産業振興財団／ 公益社団法人京都市保育園連盟／京都商店連盟／京都新聞／朝日新聞京都総局／毎日新聞社京都支局／読売新聞京都総局／産経新聞社京都総局／日本経済新聞社京都支社／中日新聞社 /NHK 京都放送局／　KBS 京都／ MBS ／ 読売テレビ／関西テレビ放送株式会社 /J：COM 京都みやびじょん／エフエム京都／ 京阪電気鉄道株式会社／京福電気鉄道株式会社

スペシャルパートナー：ローム

KYO-SENSE パートナー：GS YUASA